修身論

前篇

一

T1A1
22
(W49)

明治七年一月

脩身論

文部省

脩身論凡例

一近来奎運ノ隆盛ニ際シ譯書ノ出ル日ハ一日ヨリ多シ然レトモ未タ脩身ノ書ヲ譯スル者有ノ見ス恐クハ學者本ヲ棄テ末ニ趨ルノ弊リキ能ハサランヿヲ是余ノ淺陋ヲ顧ミスシテ此書ヲ譯スル所以ナリ

一原書ハ「アメリカ」合衆國脩身學ノ博士「フランシス、ヱーランド」ノ著述ニテ「エレメンツ、オフ、モラル、サイアンス」ト題セリ之ヲ譯スレハ脩身學ノ基礎ト云フ義ニシテ同氏ノ著述セル大

一 脩身論ヲ簡略セル者ナリ

一 此書分テ前後二編トス前編ハ道理ヲ論シ後編ハ實行ヲ説ク

一 原書前編ノ尾ト後編ノ首トニ於テ尚數章ノ議論アリ是童蒙ノ解シ難キヲ多キヲ以テ譯者其本意ニ非ラスト雖モ姑ク之ヲ刪除ス

一 書中古書ヲ引用スル者多シ譬ヘハ漢籍中ニ詩經書經等ヲ引用スル如ク數章數句ノ中ヨリ一章一句ヲ引用スルヲ以テ文意連續セサル者間〻之アリ看者其之ヲ尤ルヿ勿レ

一 書中意味ノ解シ難キ處ハ他書ニ據リ嵌注ヲ下シテ之ヲ釋明シ若シ臆説ヲ用フルキハ按スルヿノ字ヲ加ヘテ之ヲ別ツ

明治五年壬申六月

譯者識

修身論

修身論前編目録

第一章
修身ノ定則修身ノ所作及ト志ヲ論ス
第一条
修身ノ定則
第二条
修身 所作（ハタラキ） 志
第二章
本心ヲ論ス
第一条

本心ノ解及ヒ其人ヲ警戒スルノ方法(カタ)

第二条

本心ヲ研キ或ノ之ヲ害フ事

第三条

備身ノ規則

第三章

本心已ニ責メサルトキハ其行必ラス是ナリ

ヤ否ヤヲ論ス

第四章

樂ヲ論ス

後編巻一目録

第一章

人間相互ノ職務ヲ論ス

第二章

身體ノ自由及ヒ之ヲ破ルノ方法ヲ論ス

第一条

各箇ノ人身體ノ自由ヲ妨クル事

第二条

社中身體ノ自由ヲ妨クル事

第三章

所有ヲ論ス
第一条
所有ノ權ノ本義及ヒ之ヲ得ルノ原由
第二条
所有ノ權ヲ犯ス事
第三条
償有形ノ物ニシテ授受永久ナル件ノ所有ノ定則即チ賣主買主ノ定則
第四条
一時ノ授受即チ借貸
附 他ノ所有物ノ借貸
危險保管請合
第五条
無形ノ償ニテ貿易スル事
第四章
品性ヲ論
第五章
訴判ヲ論
第六章
眞實ヲ論ス

第一条
確言
第二条
約束　契約
卷二
第七章
親ノ職務及ヒ其權ヲ論ス
第八章
子ノ職務及ヒ其權ヲ論ス
附　子ノ職務ト權トノ存スル時間ヲ論ス
第九章
人民ノ職務ヲ論ス
第一条
政府ノ本義
第二条
政府ノ種類
第三条
合衆國ノ政府
仁惠ノ職務ヲ論ス
第一章

仁惠ヲ論ス
第二章
第一条
窮迫ノ人ニ對シテノ仁惠
附 教育ノ事
第二条
惡人ニ對シテノ仁
第二条
己ヲ害スル者ニ對シテノ仁惠
第三章
畜類ニ對シテノ職務ヲ論ス

修身論目錄終

己所欲施之於人

脩身論前編

阿部泰藏　譯

第一章

脩身ノ定則脩身ノ所作及ト志ヲ論ス

第一条

脩身ノ定則

脩身論ハ身ヲ脩ムル定則ノ學ナリ故ニ之ヲ學フニハ先ツ定則ノ字義ヲ知ラサルヘカラス例セハ茲ニ二ツノ事アリ甲先ヅスレハ乙必ス之

ニ次ク此一定離ルヘカラサル關係ヲ定則ト名ケ或ハ之ヲ分テ其先ニ起ルモノヲ原因ト云ヒ次テ起ルモノヲ實効ト云フ左ニ其例ヲ掲クノ水ヲ冷ヤシテ某ノ度ニ至ラシムレハ水必ス變シテ氷トナル故ニ化學者水ハ某ノ度ニシテ氷トナルヲ定則トス又水ヲ暖メテ某ノ度ニ至ラシムレハ水必ス變シテ蒸氣トナル故ニ化學者某ノ度ニシテ水ノ蒸發スルヲ定則トス是則チ冷ハ水ノ凍ル原因ニシテ熱ハ其蒸發スル原因ナリ

斯ク原因ト實効ト一定離ルヘカラサルハ之ヲシテ關係相離レサラシムルカト何レノ時ヲ論セス何レノ地ニ於テモ此力ヲ使用スル者ト無キヿヲ得ス故ニ自然ノ定則アルハ萬物ヲ主宰スル天アルノ證ナリ

天斯ク原因ト實効トヲシテ一定離レサラシメシハ人ヲシテ事ヲ行フニ其方向ヲ知ラシムル為メナリ故ニ水ヲシテ某ノ度ノ熱ニ於テ沸騰セシムルヘ人ヲシテ水ヲ沸騰セシメント欲スル時某ノ度ノ熱ニ至ラシムヘキヿヲ知ラシ

ノンカ為メナリ蓋シ天ハ定則ヲ變スルヿナキモノナリ故ニ人何事ヲ為ストモ天ノ定メタル定則ニ従ハサレハ決シテ成功アルヿナシ

身ヲ脩ムルヿモ亦此ノ如ク人ハ自ラ其所行ノ是非ヲ知ルモノニシテ霊言、偷盗、殺害、殘忍等ヲナスハ其非ナルヲ覺ユ真實、正直、慈愛、親切、記恩ハ其是ナルヲ覺ユ故ニ縱令少年ノ者ト雖モ深思ヲ待スシテ其所行ノ是非ニ因リ隨テ心ニ生スル所ノモノ亦異ナルヲ知ル即チ己ノ行非ナル時ハ悔悟ノ意ヲ生シテ自ラ其心ノ苦シキヲ覺エ他人ノ之ヲ知ルヲ恐レテ其事ヲ發露スル時ハ人ノ己ヲ賤ミ惡ムヲ知ル之ニ反シテ其行是ナル時ハ其心自ラ樂シキヲ覺エ慚愧後悔ノ念ナク人ノ皆己ヲ重シスヘキヿヲ知ル所作ノ是非ニ因リ心ニ苦樂ヲ覺ユルハ一定離レサルモノナリ故ニ之ヲ定則ト名ケ此關係ハ萬物ノ靈タル人ノ行ニノミ限リタルモノナリ因テ之ヲ脩身ノ定則ト云フ

人其行ノ是非ニ因リ苦樂ヲ覺ユルハ決シテ變スヘカラサルモノナリ故ニ天ノ定メタル定則

ヲルヿ殊ナレ天ノ斯ノ定則ヲ定メタル其趣旨ハ善ク人ヲ教ヘ導クニ在リ蓋シ人其行正シキ時ハ其心必ス樂シキヲ覚エ其行正シカラサル時ハ其心必ス苦シキヲ覚エ此ニ由テ考レハ天ハ言ハサレ共正ヲ愛シ不正ヲ憎ムヿ明カナリ譬ヘハ人ヲ殺ス者盡ク死ヲ以テ罰セラルヽ共ハ縱令文字ニ書シテ之ヲ禁セサレ共人ヲシテ殺害ノ非ヲ知ラシムルニ至テハ少シモ異ナルヿヲキカ如シ

第二条

備身ノ所作　志

何物ニテモ目的アリテ事ヲ為セハ之ヲ所作ト名ク

人畜共ニ目的アリテ事ヲ為スモノナリ蓋シ畜類ノ互ニ相害シ或ハ人ヲ傷フモ亦傷害ヲ為ス可キ目的ヨリ出ツ

然レ共人ト畜類トハ其所作自カラ別ノリ人ハ其所作ノ是非ヲ知レ共畜類ハ之ヲ知ルヿ能ハス故ニ畜類ノ所作ハ備身ノ所作ニ非ラス備身ノ所作トハ唯是非ヲ區別スル人ノ所作ノミヲ

云フ

人ノ事ヲ為スニ或ハ偶然ニ出ツルモノアリ譬ヘハ人ノ来ルヲ知ラスシテ球ヲ投ケ誤テ之ノ傷ツクルカ如シ斯ル偶然ノ過ハ不安ノ心ヲ懷クト雖ヒ敢テ罪惡ヲ犯セシト思フヿナシ総テ其志ヨリ出テ或ハ粗忽ニ由リ人ヲ傷害セシニ非ラサレハ本心ノ己ヲ責ムルヿナシ

又好意却テ人ノ害トナルヿアリ譬ヘハ病人ニ食物ヲ贈リ之カ為メニ病苦ヲ増スヿアルカ如シ病人ニ對シテハ自ラ不安ノ心ヲ生スレハ素ト好嵩ヨリ出タルニ因リ本心ノ己ヲ責ムルヿナシ是等ノ例ヲ以テ考フレハ所作ノ是非ハ其志ノ善惡ニ因ルモノナルヿ推テ知ルヘシ

志ノ惡シキニ數種アリ

第一　人ニ害ヲ加ヘント欲スルハ惡シ譬ヘハ怒ニ乘シテ人ヲ打チ或ハ人ヲ謗リテ其評判ヲ惡シクスルカ如キ是ナリ

第二　人ノ不幸ヲ顧ミス己ヲ慰メント欲スルハ惡シ譬ヘハ惡心アルニ非スシテ戯レニ人ヲ嘲笑スルヲ樂トスルカ如キ是ナリ豈人ノ樂

ヲ妨ケテ己ヲ慰ムルノ理アランヤ

總テ天ノ定則ニ背キタル事ヲ為サントト欲スルハ皆惡シキ志ニシテ畢竟天人定則ノ大意ハ曰ク一心天ヲ愛セヨ曰ク己ノ欲スル所之ヲ人ニ施セ此二言ノ外ニ出テス

第三　所作ノ是非ハ志ノ善惡ニ本ツクモノナリ故ニ若シ惡事ヲ為サントト欲スレハ縱令之ヲ為シ得スト雖ル其惡事タルヲ免レス又善事ヲ為サントト欲スレハ縱令之ヲ行フヿ能ハサレ共天心ス之ヲ好ミス故ニ天ヨリ之ヲ見レハ貧人慈悲ノ念ハ富人ノ物ヲ施スト毫モ優劣無シ

第四　善行ニハ善志ナカルヘカラス故ニ縱令善事ヲ行フ共善志ヨリ出タルニ非ラサレハ眞ノ善事ト云フヘカラス譬ヘハ此ニ裁判人アリテ人ノ為メニ寃ヲ伸ハシ惡ヲ報スルヿ如キハ善事ナレ共天ヲ畏レス亦人ヲ重ンセス只速カニ其身ノ煩勞ヲ免レンカタメニ裁判セシ時ハ善事ヲ行フタルニ非ラス畢竟其志ハ己ノ煩勞ヲ免レンカタメノミ又子父母ノ命セシ事ヲ行フト雖モ心ニ之ヲ好マサルカ如キ縱令父母ノ

命ニ背カスト雖モ真ニ父母ヲ親愛シ好テ命ニ
従フニ非ラス故ニ孝子ト云フヘカラス
人ノ志ハ大イニ平生ノ感覺ニ關係スルモノナリ
人ノ注意セサルヘカラス蓋シ常ニ猜忌報復毒
惡ノ感覺アル者ハ其所業亦猜忌報復毒惡ニ陷
リ易ク斯ル感覺ハ人ヲ惡事ニ誘フモノナリ故
ニ其感覺亦惡シキ者タラサルヲ得ス聖人曰ク
諸惡皆其心ヨリ生スト蓋シ此謂ナリ

第二章

本心ヲ論ス

第一条

本心ノ解及ヒ其人ヲ警戒スルノ方法

人何事ヲ為スニモ之ヲ為スノ具ナカルヘカラ
ス故ニ歩スルニ足ナカルヘカラス視ルニ目ナ
カルヘカラス聽クニ耳ナカルヘカラス百事皆
然リ
無形ノ所作モ有形ノ所作無形有形トハ見ルヘカラサルモノト見ルヘ
キモノトヲ云フ即チ人ノ内部ト外物トノ別ナリト異ナルヿナシ故ニ
物ヲ考ヘ或ハ物ニ感スルニハ精神ナカルヘカ
ラス事ヲ記臆スルニハ記臆ノ力ナカルヘカラ

ス

人ハ所作ノ是非ヲ區別スルノ力アリテ己ノ所作ノ是非ニ因リ一種ノ感覺ヲ起スモノナリ此能力ヲ本心ト名ク此ハ人ニノミ限リタルモノニシテ畜類ニ於テハ此能力アルヿナシ

此是非ノ感覺ハ天ニ對シ或ハ人ニ關スルノ差別ナク都テ人ノ所作ニ屬スルモノヿリ論ヘハ茲ニ一童子アリ靈誕ヲ吐キ或ハ擒ヲナシ或ハ禮拜日ヲ犯ス時ハ人之ヲ聞見セサレトモ自ラ其身ノ罪ヲ天ニ得タルヿヲ覺ユ天罰ヲ蒙ルヘキヿヲ恐レ又物ヲ盜ミ或ハ其作ヲ騙シ或ハ之ノ打チ或ハ之ヲ賤シ辱カシムル時ハ亦自ラ人ヲ害セシ罪ヲ覺エ其面ヲ見ルヿヲ慙チ己ノ所作ノ罪ヲ得可キヿヲ知ル

附人動物ノ害スル時モ亦此感覺ヲ起スヿアリ

之ニ由テ考フレハ本心ハ天ニ對シ人ニ係ハルノ差別ナク己ノ所作ノ是ト非トヲ區別スル能カニシテ他人ノ所作ニ於テモ亦其是非ノ區別スルヿ己ノ所作ト異ナルヿナシ故ニ本心ハ總テ

脩身ノ所作ノ是非ヲ區別スル能力ニシテ又此
本心ハ啻ニ其是非ヲ區別スルノミニ非ス事ノ
是ナリト思フニ逢ヘハ鼓舞シテ之ヲ行ハシメ
其非ナリト思フニ逢ヘハ制止シテ行ハシメス
又事ノ是ナルヲ行ヘハ其心ノ樂キヲ覺エ非
ナルヲ行ヘハ其心ノ苦シキヲ覺ユルカ如キ亦
此能力ニ因ル
本心ノ人ヲ警戒スルヲ知ラシムヘキタメ所作
ノ是非ニ付キ生スル所ノ感覺ヲ左ニ略説ス
故ニ不幸ノ子アリ父ニ對シテ怒ヲ發シ其打ツ

ヘキヤウ止ムヘキヤト考フルトキハ父ハ已ヨ
リ其力強ク之ヲ打ツトキハ懲治ニ逢フヲ思フノ
念恐クハ先ツ生スヘシ故ニ其得失ノ償ハサル
ヲ顧ミスシテ父ヲ打ツハ愚ナリト思フノ念ヲ生シ
敢テ為サヽルニ至ルト雖ル若シ父病ニ罹リ子
之ヲ打ツニ懲治スルヿ能ハサル時ハ憐愛ノ情
頓ニ動キ其予熟考ヲ待タスシテ直ニ父ヲ打ツ
ノ非ナルヲ覺ユルヿ父ノ己ヲ懲治スルト否ト
ニ毫モ關係スルヿナシ又童子フリ他ノ童子ノ
病ニ臥シタル其父ニ孝ヲ盡ヲスヿヲ打ツヲ見

ルキハ其所作ノ兇惡ナルヲ疾ミ懲治シテ可ナリト謂フヘシ又子其父ヲ打タントスルヲ欲シ却テ重傷ヲ受クルキハ人之ヲ憐ハト雖ヒ其傷ヲ受ケルハ當然ノ理ナリト謂ハサル者ナカルヘシ

子父ヲ打ツノ非ナルヲ覺ユルキハ恰モ父ヲ打ツヲ勿レト告戒スル者アルカ如キヲ覺エ其怒ヲ發スルキ心ニ兩端ヲ懷テ怒氣ハ之ニ其父ヲ打ツヲ勸メ本心ハ之ヲ制シテ恰モ父ヲ打ツヘカラスト告ルカ如シ故ニ其怒ニ任スルト本心ニ從フトニ因テ善惡ノ別生ス又一童子玩具ヲ買ハンカ為メ錢ヲ乞ヒ玩具舗ニ行ク其途中貧婦ノ子ノ餓ヲ死ナシトスルヲ見レハ其遊ヲ欲スルノ念ハ之ニ勸メテ玩具ヲ買ハシメントシ本心ハ之ニ勸メテ餓子ヲ救ハシメントス此時私欲ノ情深ト童子ハ玩具ヲ愛スルノ念ヲ制止スルヿ能ハス其餓死ヲ顧ミサルニ至リ善良ナル童子ハ本心ノ勸メニ從ヒ私欲ヲ抑ヘテ錢ノ與ヘ以テ其窮餓ヲ救フヘシ

事ヲ行フテ後ニ心ニ生スル感覺ニ因リ本心ノ人ニ善ヲ勸ムルカ惡ヲ勸ムルカヲ知レニ足ルヘ

レ今上ニ記スル例ニ就キ之ヲ論スルニ童子若シ錢ヲ與ヘ餓者ヲ救ヒシレバ其心樂シクシテ自ラ其行ヲ善トシレ又他人ノ之ヲ行フヲ見トハ其人ヲ愛慕シテ其報ヲ得ルヲ願フヘシ又若シ其錢ヲ施ヒシ童子後ニ餓者ヲ救ヒシ地ヲ過キ嘗テ施ヒシ額ヨリ二倍ノ錢ヲ得ルヲ人皆之ヲ喜シ其報ヲ得タルハ當然ナリト謂フヘシ之ニ反シ童子餓者ヲ顧慮セス甚シキハ之ヲ罵リ或ハ之ヲ打チ其地ヲ去リシ後ニ己ノ行ヲ回想スルキハ慚愧憂悶シテ其心甚タ樂シマス自ラ惡報ヲ承ケ可キ懼心ヲ生シ他人ノ此事ヲ行フヲ見レハ亦其人ヲ厭忌シテ相與ニ交ルヲ欲セス其行フ所罰ヲ受クヲ可ナリト謂フ可シ

是惡ヲ行ヒシ人ハ危懼シテ其心安シセス善ヲ行ヒシ人ハ胆氣盛壯ニシテ畏憚スル所ナキ所以ナリ夫惡ヲ行ヒシ人ハ己ノ罰セラルヘキヲ知ル故ニ人皆己ヲ罰センヿヲ恐ル善ヲ行ヒシ人ハ己ノ賞セラルヘキヲ知ル故ニ何人ニ對スレトモ敢テ恐ルヽ所ナシ

是惡事ノ發露シ易キ所以ニシテ惡事ヲ為シタ

ル人ハ畏懼慚愧ノ念其色ニ發シ其行ニ形ハレ之ヲ掩ハント欲スレハ愈其醜態ヲ現ハスニ至ル故ニ古書ニ曰ク惡人ハ自ラ其手ニ捕ヘラレ縛ハレヒ協心戮力シテ之ヲ陷カント欲スルモ終ニ其罰ヲ免カルヽヲ得サルヘシト

第二条

本心ヲ研ヤ或ハ之ヲ害ス事

人ノ能力ハ或ハ之ヲ研クヿヲ得或ハ之ヲ害フヿヲ得ヘシ蓋シ同年ノ人ト雖モ強健ノ人アリ軟弱ノ人アリ或ハ腕力ノ強キ者アリ或ハ脚力ノ健ナル者アリテ内部ノ能力モ亦然リ強記ノ人アリ健忘ノ人アリ文ノ作レニ速ナル者アリ遲キ者アリ其他勝テ數フヘカラス

大抵最モ強キ能力ハ最モ多ク用フルモノナリ茲ニ二人アリ甲ハ乙ヨリモ力勝レ因テ之ヲ推問スレハ果シテ甲ハ乙ヨリモ力ヲ勞スルヿ多キ者ナリ故ニ平生腕ヲ用フルヲ職業トスル者ハ其腕必ス強ク多ク歩行スル者ハ其脚必ス健ナリ又常ニ記臆ノ力ヲ用フル者ハ強記トナリ稀ニ之ヲ用フル者ハ健忘トナル故ニ總テ人

ノ能カハ之ヲ用フレハ常ニ強ク用ヒサレハ常ニ弱キヲ通常トス

人ノ本心モ亦此規則ノ如シ

所作ノ是非ヲ決センカ為メ本心ヲ用フルヿ數ナレハ是非ヲ區別スルヿ增容易ナルヲ得可シ故ニ常ニ何事ヲ為スニモ此事ハ是ナリヤ非ナリヤト自ラ心ニ問ヒ然ル後ニ之ヲ行ヘハ已ノ職務ヲ過ツヿ幾ト稀ナリ成ク小兒ノ別ナク皆然ラサルハ無シ

徳行ニ注意シテ有徳ノ人物ヲ思念スレハ其本心是非ヲ區別スルノ力ヲ強クス之ヲ行フヿ數ナレハ非ヲ知テ之ヲ避クルヿ愈易ク本心ヲ叫キ徳ヲ修メント欲スル時聖人ノ成徳ノ思念スヘキハ蓋シ是カ為メナリ故ニ少年輩ハ常ニ古ノサミユールヲ近代ノリンカンニ比スヘシ又其他先賢ノ人ト為リヲ思念スヘシ若シ之ニ反スレハ其是非ヲ區別スルノ力ヲ弱クスル辭ヲ待タス

人已レノ所作ノ是ト非トヲ省察スルニ怠リ是ヲ行ヒ非ヲ行フヲ敢テ其心ニ留メサル時ハ毎事是

非ヲ決スルノ難キニ至ルヘシ故ニ父母小兒ニ其所作ヲ省ミテ是非ヲ決スヘキヲ教フルトキハ之ヲ教ヘサル小兒ニ比スルニ其事ヲ為スノ際能ノ是非ヲ辨スヘシ是世人ノ普ク知ル所ナリ」

又惡事ヲ見聞シ或ハ常ニ惡念ヲ除ク時ハ是非ニ決スルノカヲ弱クス蓋シ童子他人ノ擅ヲ為スヲ始メテ聞クトキハ其非ナルヲ覺ユレトモ之ト親シク交ハルトキハ其擅ヲ為スヲ見レトモ掛念セス久シカラスシテ自ラ擅ヲ為ス一重ヘレ虛誕殘酷悪口及ヒ其他ノ諸惡皆然リ故ニ人ハ友ヲ擇ヒ謹テ惡人ト交ルヘカラス

前条ニ云ヘル如ク本心ノ人ニ是ヲ為スヲ勸ムルハ恰モ詞ヲ以テ命令ヲナスカ如ク此命令ハ之ヲ用フルト用ヒサルトニ因リ強弱ノ別ヲ生スルモノナリ故ニ常ニ小心翼々トシテ本心命令ニ服ハシト欲スル人ハ惡念ノ之ヲ誘惑スルカ為ニ常ニ正直ナルヲ務メ又戯ト雖モ人ヲ騙スヿカラント欲スハ人ハ其心不正ヲ防ク

「強シ然ルニ時ニ靈言ヲ吐キ或ハ人ヲ騙ス者ハ靈誕不正ヲ防クノ心次第ニ減シ其偷兒（ズスヒト）靈言（カミイヒ）

者ニ陷ラサル者ハ之ヲ僥倖ト謂フヘシ

右ノ規則ハ互ニ相關係スハ是モノニシテ己ノ所作ノ是非ヲ省察スル數ナレハ是ヲ為サント欲スルノ心愈強ク是ヲ為サント欲スルノ心強ケレハ是非ヲ區別スルヿ愈易シ

本心ハ苦樂ノ源ナルヿ前条ニ於テ既ニ之ヲ詳論シ然ルニ此苦樂ハ人ノ本心ヲ用フル多少ニ由リ又強弱ノ差アリ

人善事ヲ行フヿ數ナレハ善ヲ行フヿヲ樂ムノ念愈深シ故ニ仁者ハ其心常ニ樂シヲ覚エ稱ニ善事ヲ行フ者ハ之ヲ樂ムノ念少ナシ故ニ善ヲ為セル其心幾ント樂ヲ知ラス然ルニ真ノ仁人ハ善ヲ行フテ人ヲ樂マシメ亦以テ恒ニ己ノ樂トナス蓋シ善事ヲ行フヿヲ樂ヲ得ル時ハ其為スヘキ善事極テ多クシテ貧富少長ノ別ナク隨意ニ善事ヲ為シテ其樂ヲ得可キ世界ニ天ノ人ヲ住シメシヲ莫大ノ恩ト思フヿ可シ

之ニ反シ數本心ニ背ケハ非ヲ為セル其苦ヲ覚ユルヿ次第ニ少ナシ故ニ童子始メテ霊言ヲ吐キ或ハ惡言ヲ出ス時ハ其非ヲ覚エテ心甚タ樂

シカラサレバ其習慣トナルニ至テハ少シモ其苦ヲ覚ユルヿナク甚タシキハ人ニ對シテ之ヲ誇ルニ至ル偷盗及ヒ他ノ諸惡皆然リ

此ノ如キハ惡人其苦ヲ覚ユルヿ少クシテ惡事ヲ為スヲ得故ニ天ハ惡人ヲ利スルニ似タリト雖ヒ深ク之ヲ考フレハ全ク之ニ反セリ其故ハ人若シ非ヲ為スヲ畏レテ之ヲ為セハ本心其苦ヲ覚ユル故ニ非ヲ為スヿ稀ニシテ且ツ之ヲ秘スト雖ヒ若シ本心其苦ヲ覚エサルニ至ルトキハ大膽ニシテ顧忌スル所ナク公然其非ヲ行フニ因リ忽チ相當ノ罰ヲ受ク可シ故ニ人ノ非ヲ行フトキ本心ヲシテ之ヲ制止セシムルハ是天ノ惠ニシテ若シ本心ノ之ヲ制止セサルニ至リ其罰ニ逢フハ是天ノ怒甚タシクシテ其自滅ニ任スルノ證據ナリ然ヒ嘗ク非ヲ行フヲ制止スル本心ノ鈍キハ又只一時ニ過キスシテ永ク回復セサルヿナシ故ニ其病ニ卧シ或ハ死ニ臨ミシトキハ數本心ノ發露スルヿアリテ且其本心ノ力ハ現世ヨリ未来ニ於テハ更ニ強大ニシテ生前惡事ヲ行ヘハ永ク苦惱ノ源トナルヘシ

上ノ論ニ由リ之ヲ推セハ左ニ記スル事件ノ驗然タルヲ知ルヘシ

第一　人是ヲ行フヿ數ナレハ之ヲ行フヿ愈易クシテ其樂愈大ナリ誘惑ヲ拒ムヿ數ナレハ何等ノ誘惑アリト雖ヒ之ヲ拒ムヿ愈易シ故ニ人ノ德ニ進ムヤ其一歩毎ニ更ニ德ニ進ムノ預備ヲナシ次第ニ相積ムノ後ハ確乎動カスヘカラサル人物トナルヘシ

第二　之ニ反シテ非ヲ行フヿ數ナレハ誘惑ヲ拒ムヿ愈難ク罪ニ陷ル愈易ウシテ本心ノ制止スル所ニ背クト雖ヒ之ヲ悔ル愈少ナシ故ニ罪ニ陷ル深ケレハ德ニ復スル愈難ケレテ回復ノ望次第ニ絶スルニ至ル

此ニ由テ人ハ常ニ誘惑ヲ拒ミ斷然其是ヲ行フノ大事タルヲ知ルヘシ又惡事ノ習慣トナリシキハ果然トシテ直ニ之ヲ改ノ須臾モ猶豫スヘカラス若シ之ノ遲ウスレハ之ヲ改ムル愈難ウシテ之ニ克ツノ力愈減スルニ至ルヘシ人ニ對スルノ罪猶此ノ如シ況ンヤ天ニ對スルノ罪ニ於テヲヤ

左ノ註解ハ「ジーベニ、ミセラニー」ト云ヘル書中ニ記シタルモノニシテ触ク此条ノ義ヲ明ラニス故ニ今茲ニ附録ス

警鐘ノ話

一女子アリ早起セントスレモ眠ノ覚メ難キヲ患ヒ警鐘ヲ買ヘリ此警鐘ト云ヘルハ何時ニテモ隨意ニ大ナル響ヲ發スヘク造リシモノナリ

此女ハ其警鐘ヲ床頭ニ置キ期ニ届リテ其響ノタメ眠ヲ驚ロサレ聲ニ應シテ早起シ終日其心快ク此ノ如キ者数周日警鐘モ亦其職ヲ怠ラス其聲鏘然タリシカ後女子早起ニ慣ミ警鐘ノ為メニ驚回セラルレハ唯之ヲ顧ルノミニシテ再ヒ眠ニ就キ数日ノ後ハ警鐘ノ聲復タ其眠ヲ覺マコナシ其故ハ其警回スルニ背クコ習慣トナリテ警鐘ハ故ノ如ク響ケモ復タ之ヲ聞クコナキニ因レリ是ニ於テ其女子ハ警鐘ノ有ンモ無キカ如キヲ省ミ断然意ヲ決シテ再ヒ其響ヲ聞クハハ直ニ起キテ其警戒ニ背カサラントスルニ触ク過ヲ改ル

者ト謂フヘシ

本心亦此ノ如ク小事ト雖モ人能ク其命令ニ

從フヤハ其聲ヲ聞クヿ常ニ鏘然ナレモ或ハ

其非ヲルヲ思フヤ之ヲナヒハ次第ニ感覚ヲ

鈍クシテ終ニハ本心ノ聲已ヲ驚回スルヿナ

キニ至ルヘシ

第二条

脩身ノ規則

人ハ何事ニ於テモ之ヲ為サント決セサル前先

ヅ左ノ規則ニ注意スヘシ

第一　事ヲ為スニ先ツ此事ハ是ナリヤト自フ

之ヲ心ニ問ワヘシ此問ニ答ヘレムヘキ為メ天

人ニ本心ヲ賦與セリ故ニ若シ己ノ行ノヘキ職

務ヲ知ルヘキ為メニ其本心ヲ用ヒサレハ是大

惡ニシテ天必ス之ヲ罪ス且之ヲ其本心ニ問フ

ハ必ス事ヲ為レ始メサル前ニ於テスヘシ若シ

既ニ之ヲ為レ始メ或ハ之ヲ為サント決セタル

後ハ恐ラクハ遅ウシテ及ハサルヘシ

第二　上ニ記シタル如ク人ハ本心ノ命令ニ從

ハスシテ之ヲ害フニ至ル事ヲ毎ニ想起スヘシ

人ハ數其本心ニ背キテ本心十分ニ正シキヲ得ス因テ其事ニ當ルノトキ數是非ノ決シ難キヲ
ヲ故ニ若シ是非ノ分明ナラサルトキ之ヲ行ハ
スシテ妨ケナキニ於テハ決シテ之ヲ行フヘカ
ラス

第三　常ニ本心ノ命スル事ヲ行ヒ本心ノ禁ス
ル事ヲ為サヽルヲ規則トスヘシ故ニ言行思念
ノ別ナク或ハ公ニ之ヲ行ヒ或ハ私ニ之ヲ行ヒ
又ハ己ノ大害ヲナスモ毫モ之ニ関係セス只己
ノ是ナリト思フ事ヲ為スヘシ蓋シ害ノ最モ大
ナルノ常ニ非ヲ為スヨリ起リ益ノ最モ大ナル
ハ常ニ是ヲ為スヨリ生ス故ニ人ハ世ノ譏譽ヲ
顧ミス常ニ天ニ後フヘシ

事ヲ行フヲ後ノ規則

第一　常ニ己ノ行ヒヲ省ミ其是非ヲ決スヘシ是
ヲ省身ト云フ

第二　省身ハ小心ヲモトトス故ニ獨リ閑室ニ坐
シテ靜カニ之ヲ行フヘシ且ツ之ヲ行フハ別ニ
時間ヲ用フルニ非サレハ決シテ為ス能ハサ
ルヘシ

省身ハ須ラク公平ニスヘシ故ニ己レノ是非ヲ決スルハ必ス其正シキニ出ルヲ務メ假リニ他人ヲ己レノ地位ニ置キ己レノ行フ所ヲ他人ノ行フタルヲト看做シテ以テ其是非如何ト省ミルヘシ又天ノ定則ト先賢ノ模範トヲ鑒ミテ己レノ行事ノ之ト合スルヤ否ヤヲ考フヘシ故ニ其父母長者ト共ニ天ノ定則及ヒ先賢ノ模範等ヲ談論シ自ラ是非ノ決シ難キ事アラハ其教諭ヲ請フヘシ少年ノ為メニ甚タ有益ノ事ナリ

己レノ行フヲ省ミ其是非ヲ決セシ後ハ左ノ規則ヲ守ルヘシ

第一　行是ナリシキハ天ノ己レヲシテ是ヲ行フヲ得セシメタルヲ謝シ更ニ德ニ進ムヲ務ムヘシ

第二　是非相混シタルキハ審ニ其混シタル原因ヲ察シ再ヒ過ニ陷イルヲ避クヘシ

第三　行非ナリシキハ左ノ規則ニ從フヘシ

其一　其行ヲ省ミ自ラ其罪ヲ知ルニ至ラサレハ止ムヿ勿レ

其二　甘ンシテ本心ノ苦ヲ受ケ他事ヲ為シテ其苦ヲ忘レントスルヿ勿レ本心苦ヲ受クレハ後ニ非ヲ為スヲ避ルヿ易シ

其三　自ラ過ヲ悔イ再ヒ其行ヲ可カラサルヲ決意スルニ至ル迄ハ之ヲ忘ルヽヿ勿レ

其四　己ノ為シタル害ヲ償フヲ得ハ直ニ之ヲ償フヘシ若シ人ニ對シ虚誕ヲ吐キタルキハ直ニ行テ之ヲ白状スヘシ又己ノ所有ニ非ラサル物ヲ取リタルキハ行テ之ヲ返スヘシ若シ人ニ害ヲ行フテ之ヲ償フヿ能ハサルキハ其償ニ代フルノ方至少ト雖ヒ行テ其過ヲ謝セサル人カラス

其五　何事ニ於テモ惡ハ總テ天ニ對シテノ罪ナリ故ニ至誠ノ盡ヒ悔悟シテ天ノ赦免ヲ請フヘシ

其六　思念及ヒ所行ノ別ナク其罪惡ノ原因ヲ察シ後来慎テ之ヲ避クヘシ

其七　上ノ諸件ヲ行フニハ皆至誠ヲ盡シ天ニ倚頼シテ之ヲ為スヘシ天ハ慈悲ノ心深ク各處ニ在ラサル所ナク常ニ人ヲ扶助シテ其誠ヲ守ラ

シメントト欲ス故ニ人之ニ依賴スルキハ天ハ決シテ之ヲ兼ルヿナレ

上ニ記スル所ノ說ヲ見レハ人ハ少長ノ別ナク皆重責ヲ負戴スルヲ覺ラサルヘカラス其故ハ人ト皆天ニ對シ人ニ對シテ其職務ヲ警戒スル能力ヲ有スル此能力ハ各處在ラサレ呼ヲシテ人若シ其警戒ヲ聽カシメ顧フヲハ何レノ時ト雖モ常ニ之ヲ聽クヲ得ヘシ又此能力ハ其默スルヲ顯ハル屢人ヲ警戒シテ其是ヲ行フヲ勸ムル故ニ人若シ非ヲ為スハ天ニ對シテ辨解ノ辭ナ

シ列ニ此本心ハ永ク人ト相離レス萬世苦樂ノ源ヲ為セハ此論ノ確然トシテ愈變易スヘカラサルヲ知ルニ足ルヘシ又少年ト雖モ其本心ヲ有スルヿハ成人ト相異ナルヿナレ故ニ亦此規則ニ從ハサルハカラス若シ之ニ背クトキハ天ノ罰ヲ與フル必ス成人ト異ナルヿナレ

第三章

本心ニ之ヲ責メサルトキハ其行必ラス是ナリヤ否ヤヲ論ス

人アリ他人ハ惡事ト思フ所行ヲ為ヒ己ノ本

心ハ己ヲ責メサルヿナリ故ニ他人ハ擔ヲ為ス
ヲ罪ナリト思ヘル其人ニ在テハ擔ヲ為ヒテ毫
モ妨ナシト謂フ者アリ是レ何ノ故ヲ且天ヨリ
之ヲ見レハ此ノ如キ者ハ眞實ノ罪ニ非ラサル
ヤ

答ヲ前ニ云ヘル如ク人若シ其本心ノ命令ニ從
ハサレハ終ニ之ヲ損フモノナリ故ニ令童子擔
ヲ為シテ本心己ヲ責ムレル敢テ其命ニ從ハサ
レハ更ニ擔ヲ為スノ外本心ノ己ヲ責ムルヿ較
小ナク推テ數次ニ至ルトキハ愈少ナウシテ終ニ

ハ其本心全ク己ヲ責サルニ至ル可シ然レトモ其
事ノ非ナルニ於テハ敢テ初ニ異ナルヿナシ譬
ヘハ今日輪ヲ仰キ看ル者初メ疑視スルトキハ較
其日ヲ損ヒ再ヒ疑視スルトキハ愈其日ヲ損フテ
相繼テ已マサレハ終ニ全ク盲者トナレトモ日
輪ノ光輝ハ毫モ減少セサルカ如シ
人ハ總テ天ノ罪人ナリ故ニ天ヨリ見ルトキハ實
ニ大惡ノ事ト雖モ人ミ自ラ知ラスシテ之ヲ行
フヿ無キニ非ラス蓋シ不孝ノ子ハ其父母ニ從
ハサルヲ自ラ非ナリト思ハサルヿアリ然レモ

思ハサルニ因リ其惡ヲ減スルヿナレ又人ハ大抵天ニ背キ其仁惠ヲ遺忘シテ罪ト思ハサルヿアリ然ルモ亦之ニ因リ其罪ヲ輕クスルヿナシ斯ク本心ノ鈍キハ人ノ過ヨリ生スルモノナレハ之カ為メ其咎ヲ輕クスルノ理ナレ故ニ罪ヲ犯シテ本心已ニ責メサレモ初メ本心ノ已ニ責メサレ時ノ如ク其罰ヲ受テ可ナリ

左ニ習慣ノ事ヲ略論スヘシ

人事ニ百ノ一數ナルハ之ヲ行フ甚タ容易ニシテ幾ント思慮ヲ用フルヿナク終ニハ自ラ之ヲ行フヲ禁止スルヿ能ハサルニ至ルヿ琴瑟ヲ彈シ又ハ或ル言語ヲ用フルカ如キ其習慣ヲ得ルノ甚タ速カナル人ノ能ク知ル所ナリ

備身ノ所作モ亦同シク人常ニ善事ヲ為セハ其善習慣トナリテ知ラス識ラス善事ヲ行ヒ數惡事ヲ為セハ亦其習慣トナリテ終ニハ之ヲ行ハ慮モ省察スルヿナキニ至ル

問フ惡事ト雖モ習慣トナリタルトキハ其惡輕キヤ

否天ノ人タヒ禁セト事ハ入ノ之ヲ行フヲ其習

慣トナレハノ故ヲ以テ之ヲ許ルスヿナシ天人
ニ命レテ曰ク汝偷盗スルヿ勿レト而シテ天ハ其
命令ヲ變マルヿナシ故ニ人若シ偷盗ヲ為シテ
天ノ意ニ忤フキハ其偷盗ノ習慣トナルハ天
ノ怒ニ觸ルヽヿ更ニ惠タレカラサルヲ得ス又
甲者アリ乙者ヲ打チ甲者ノ本心猶已ニ責ムル
キ乙者必ス謂フ可シ甲者自ラ其過ヲ悔イ再ヒ
之ヲ行フ可カラスト然ハ則チ甲者乙者ヲ見ル毎
ニ必ス之ヲ打チ終ニ甲者ノ本心毫モ已ニ責メ
サルニ至レハ乙者敢テ之ヲ罪無シトセス必ラ
ス謂ハン汝一タヒ我ヲ打ツ猶非ナリ況ンヤ其
相逢フ毎ニ我ヲ打ツノ習慣ヲ為スヲヤ
此説ノ如キキハ惡習ニ喩イ思慮ヲ用ヒスシ
テ惡事ヲ行フハ惡事ノ大ナルモノタラサルヲ
得ス

第四章

樂ヲ論ス

造物者ノ人ヲ造ルヤ其周邊ニ生存スル百物ニ
欲スルノ念ヲ賦與シテ人ノ此欲ヲ遂クルヲ樂
ト名ツク蓋シ人ハ飲食音樂風景等各其好ム所

アリ之ヲ口腹耳目ノ樂ト名ツク又書ヲ讀ミ知識ヲ博メ詩章ヲ愛シ辨論ヲ好ハ之ヲ精神ノ樂ト名ツク又朋友親戚ト交リ相與ニ其歡ヲ盡クス之ヲ交際ノ樂ト名ツク又惡ヲ去テ善ニ就キ德ヲ修メテ以テ樂ヲ得之ヲ備身ノ樂ト名ツク造物者ノ人ヲ造ルヤ是等ノ源ヨリシテ其樂ヲ取ルヿヲ得セシメ且人ノ周邊ニ是等ノ物ヲ供備スル時ハ想フニ造物者ノ人ヲシテ是等ノ樂ヲ享ケシメント欲スルヿ明ナリ故ニ造物者ノ意ハ常ニ人タシテ視聽飲食ヨリ一ノ樂ヲ享ケシメ讀書思念ヨリ一ノ樂ヲ享クシメ朋友親戚ヨリ一ノ樂ヲ享クシメ善ヲ行ヒ是ヲ為シテ百事天ニ從フヨリ一ノ樂ヲ享ケシメント欲スルニ在リ

是等ノ事物ハ皆樂ノ源ニシテ造物者ノ意モ亦此等ノ事物ヲ以テ人ノ樂ニ供セント欲スルニ在リ然ルニ之ヲ用フル自ラ一定ノ度アリテ若シ其度ニ過ルヤハ其樂ヲ樂ハ反テ苦ミトナル故ニ食物ノ愛ハ樂ノ為ノナレトモ飲食シテ其量ニ過ルヤハ嘔心ヲ發シ或ハ病ノ因ヲナシ

或ハ終ニ死ヲ致シ或ハ又之カ為メ其精神及ビ
備身ノ樂ヲ害フニ至ル可シ精神ノ樂モ亦同シ
ク若シ之ヲ求ムルノ其度ニ過ルトキハ却テ其樂
ヲ得ルノカヲ害ヒ度ニ過ルトキハ最モ甚タシキハ
ハ終ニ精神錯亂ノ患ヲ生スルニ至レ故ニ備身
ノ樂ト雖モ神ニ事ルカ如キハ人間今日ノ狀態
ニ於テハ之ヲ為メ健康ヲ害シ快活自益ノ信心
ヲ生セス却テ失望疑惑ヲ起セ[illegible]ナキニ非ス
故ニ其欲ヲ遂クルハ人ノ樂ニシテ造物者ノ意
ナリ雖モ常ニ造物者ノ定メタル度内ニ於テ

ノミ其樂ヲ得ヘク若シ其度ヲ踰ユルトキハ樂ノ
得ヘシテ却テ不幸ヲ生ス故ニ最大ノ樂ヲ得ル
ハ己ノ欲ヲ恣マヽニセス造物者ノ設ケタル定
則ヲ守ルニ在リ若シ造物者ノ定則ニ齟齬シタ
ル方法ヲ用ヒ或ハ其度ニ過キテ欲ヲ遂クルトキ
ハ忽チ其身ヲ不幸ニ陥ラシムルニ至ル試ミニ
看ヨ世間最モ樂ナキ人ハ只歡樂ヲ求メ敢テ造
物者ノ定則ヲ顧ミサル者ナリ故ニ人若シ其樂
ヲ欲セハ左ノ規則ヲ守ルヘシ
第一　飲食ヲ節スヘシ　即チ無益ノ物ヲ飲食ス

ヽカラス暴飲故食スヘカラス人若シ物ヲ食ヒ之カ為メニ苦痛ヲ起シ或ハ睡眠ヲ催ストキハ自ラ其飲食ノ節ヲ失ヒシヲ知ルヘシ

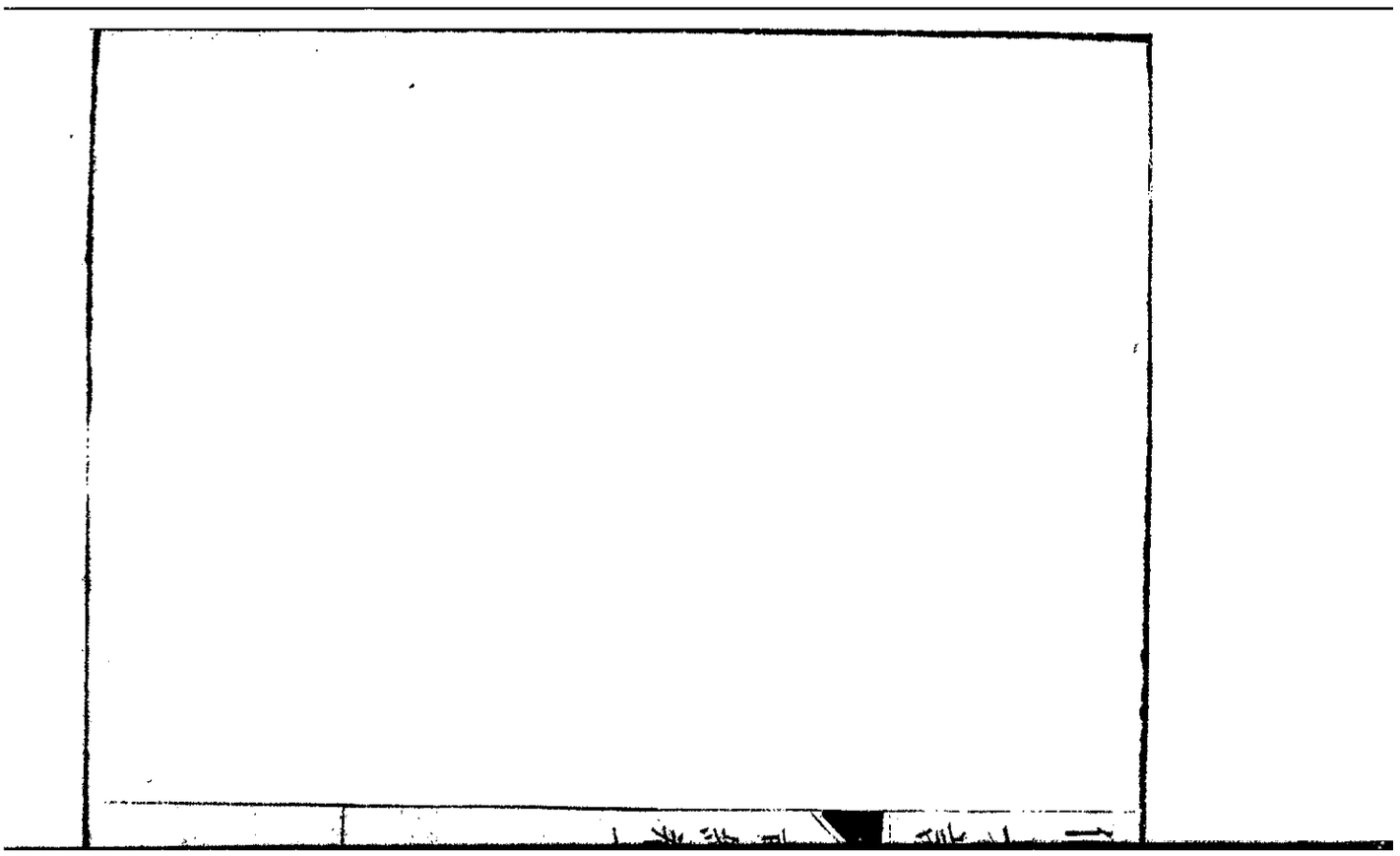
第二　事ヲ為スニ勉強スヘシ人若シ勞動セサルトキハ忽チ虚弱多病トナリ讀書聞見ノ樂モ之ヲ享ルヿ亦少ナシ蓋シ怠惰ハ其身體ヲ害フカ如ク亦精神ヲ害フヒトナリ

第三　學業ヲ勤ムヘシ然レトモ只人シヲシテ學業ニノミ光陰ヲ用ヒシムヘキノ謂ニアラス此ノ如キハ豈人ノ行ヒ得ヘキ所ナランヤ故ニ其學業ノ勤ムルハ人ヽ其職業ノ餘暇アルトキ多ク少ノ時ノ用ヒ常ニ書ヲ讀ミ精神ヲ研クニ在テ斯ノ如ク為スヿハ即チ樂ノ源ニシテ有益ノ具トナルヘシフランクリン合衆國ノ大學者幼年ノ時印書商ノ小奴タリカ初メ印書家ノ小奴ヨリ終ニ理科政科ノ大先生トナリ大家ノ基ヲ立テシモ亦其餘暇ノ時ヲ用ヒタルニ因ルリ

第四　善良ナルヘシ即チ毎事天ニ事ヘ天ニ從ハントト務ムルヲ言フ蓋シ誠意ヲ以テ天ヲ敬スル人民ハ少長ノ別ナク他ノ人民ヨリ其樂ヲ得

レ甚タ多キ一人皆之ヲ聽サヽルヲ得ス

第五　仁惠ヲ務ムヘシ即チ人ヲシテ樂ヲ得セシメント欲スルノ謂ニシテ天ニ事フルノ一端ナリ蓋シ己ノ樂ヲ求ムルヨリハ人ノ樂シムヲ見テ自ラ之ヲ樂ムヿ其樂更ニ深クシテ人ノ知識ヲ博ムルモ其趣旨亦世人ニ益フルヲ欲スルニ在ルキハ徒ニ己ノ樂ニ供セントスルヨリ其樂特ニ多ク又少年長者ノ別ナク無用ノ衣食ニ支消スル其費ノ半ヲ以テ人ニ樂ヲ得セシムハ費用ニ供スルハ真ノ樂ヲ得ルヿ實ニ幾多ナルヲ知ラス

市川清流　校

修身論前編卷一終